

(2) 京都丹後鉄道沿線地域公共交通計画（仮称）の策定に係る調査について
表. 調査事業の検討（企画提案内容）

| 調査対象 | 調査目的 (業務仕様書より) | 調査事業の概要 | | その他検討事項 |
|--------|----------------------------|-----------|---|--|
| 高校生 | 定期利用の増大に向けた地域内の通学者への調査 | 調査の種類と対象者 | 対象市町に立地する高等学校の2年生を対象とするアンケート調査 ※夏休み期間終了後に実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・JR結節駅での、送迎利用の状況把握 ・高校生へのグループインタビュー ・どの時間帯に、どの方面を増便してほしいかなど、詳細な調査 ・宮津駅のワークショップ結果の活用 ・高校生が鉄道に対し、不満に感じている点の調査 ・高校生の「本数の増加」という要望が、朝登校に使用する便の話か下校の便の話かといった詳細の調査 |
| | | 実施方法 | 学校の協力を得て、各校にて2年生にお願い文と調査票を配布。 回答はWebサイトにアクセスして記入 | |
| | | 把握したい主な事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・通学手段、特に送迎の実態 ・通学で困っていることは何か？ ・卒業後も地域で住み続けるために必要な公共交通は？ ・友人等に公共交通の利用を奨めるとしたらどのような点をアピール？ など | |
| 企業従業員 | 定期利用の増大に向けた地域内の通勤者への調査 | 調査の種類と対象者 | 対象市町に立地する従業員数100名以上の事業所及び官公庁の従業員を対象とするアンケート調査 | - |
| | | 実施方法 | 協力を得られる企業の従業員に、企業を通してお願い文と調査票を配布。回答はWebサイトにアクセスして記入 | |
| | | 把握したい主な事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常の通勤手段、通勤に公共交通を利用する／しない理由 ・通勤に公共交通（特に丹鉄）を利用できる可能性、通勤以外も含め公共交通を利用できる場面、及びその可能性を高めるために公共交通に求めること ・マイカー通勤者に公共交通の通勤を奨める場合にアピールできる点 など | |
| 外国人旅行者 | 沿線地域を訪れるインパウンドの移動手段等に関する調査 | 調査の種類と対象者 | 対象市町で営業する宿泊施設に宿泊する外国人旅行者（またはグループ）を対象とするアンケート調査 | <ul style="list-style-type: none"> ・入り口調査（出発点、交通手段） ・立ち寄り地点、宿泊地の調査 ・京都観光案内所での聞き取り調査 ・Visaタッチなどのデジタルマーケティングを見据えた調査 |
| | | 実施方法 | 各市町の観光協会を通じ、宿泊施設にて外国人宿泊客またはグループにアンケート調査票類（お願い文、調査票）を配布 英語、中国語、韓国語の3か国語を用意。 宿泊施設にてチェックアウト時に調査票を回収。または各自でWebサイトにアクセスして回答 | |
| | | 把握したい主な事項 | 対象地域への来訪や周遊観光の移動手段を聞くことに重点 | |
| 丹鉄利用者 | - (※受託者提案事項) | 調査の種類と対象者 | 調査日（平休各1日）に丹鉄に乗車した人を対象とするアンケート調査 ※平日調査は高校の夏休み期間終了後に実施 | - |
| | | 実施方法 | 丹鉄の主要駅の改札口で、調査員が乗車する人に調査票類（お願い文、調査票、返信用封筒）を配布。 主要駅以外の乗客やJR直通列車の乗客には、車内で調査票類を配布。 回収は、駅や車内の回収箱、郵送、Webサイトにそれぞれ対応 | |
| | | 把握したい主な事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者からみた問題点、改善要望など、現在の利用者をつなぎ止めるために必要なこと。 ・丹鉄の魅力や利用増に向けた提案など、利用促進のヒントになる事項 など | |